



# Nexus ダッシュボードのアップグレード

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [Nexus ダッシュボードのアップグレード \(2 ページ\)](#)

## 前提条件とガイドライン

既存のNexusダッシュボードクラスタをアップグレードする前に、次の手順を実行します。

- アップグレードに影響する可能性のある動作、ガイドライン、および問題の変更については、ターゲットリリースの[リリースノート](#)を必ずお読みください。

アップグレードプロセスは、すべてのNexusダッシュボードフォームファクタで同じです。クラスタを展開した際に物理サーバー、VMware ESX OVA、Azure、あるいはAWSクラウドを使用したかどうかに関係なく、対象リリースのISOイメージを使用してアップグレードします。

- 既存のクラスタで実行するサービスのリリースノートを確認し、アップグレードに影響する可能性がある動作、注意事項、問題でサービス固有の変更について対象のリリースで実行を計画するようにしてください。
- Cisco Nexus ダッシュボード リリース 2.0.1d 以降を実行する必要があります。

Cisco Application Services Engine を実行している場合は、リリース 2.1.1 にアップグレードする前に、『[Cisco Nexus ダッシュボード展開ガイド、リリース 2.0.x](#)』の説明に従ってNexusダッシュボードにアップグレードする必要があります。アプリケーションサービスエンジンクラスタをNexusダッシュボードリリース 2.0.2h にアップグレードしてから、リリース 2.1.x にアップグレードすることをお勧めします。

- 現在のNexusダッシュボードクラスタが正常であることを確認します。

NexusダッシュボードGUIの[システム概要 (System Overview)] ページでシステムの状態を確認するか、rescue-userとしてノードの1つにログインし、acs healthコマンドを実行してAll components are healthyが返ってくることを確認します。

- 既存の設定のバックアップを作成します。

- Nexus Insights サービスを実行している場合は、アップグレードの前に無効にし、アップグレードが正常に完了した後に再度有効にする必要があります。

サービスを無効にした後、アップグレードを続行する前に、クラスタが安定して正常であることを確認してください。

サービスを再度有効化する前に、『Cisco Nexus ダッシュボード ユーザ ガイド』の「アプリ インフラ サービス」セクションで説明されているように、アプリ インフラ サービス展開プロファイルがお使いの展開に適切に設定されていることを確認します。

- アップグレードが進行中にワーカーまたはスタンバイ ノードを追加するなど、設定変更がクラスタに対して行われていないことを確認します。
- リリース 2.1.1 以前からアップグレードする場合は、新しいイベント モニタリング ページを UI に正しく表示するために、ブラウザのキャッシュをクリアする必要がある場合があります。
- このリリースにアップグレードした後に、すべてのアプリケーションを最新のバージョンにアップグレードすることを推奨します。

Nexus ダッシュボードとサービスの相互運用性サポートの完全なリストについては、「[Nexus ダッシュボードとサービスの互換性マトリクス](#)」を参照してください。

- リリース 2.1.x からのダウングレードはサポートされていません。

## Nexus ダッシュボードのアップグレード

ここでは、既存の Nexus ダッシュボード クラスタをアップグレードする方法について説明します。

### 始める前に

- で説明している前提条件をすべて満たしていることを確認します。 [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)

---

**ステップ 1** Nexus ダッシュボード イメージをダウンロードします。

- a) [ソフトウェア ダウンロード (Software Download)] ページを参照します。

<https://software.cisco.com/download/home/286327743/type/286328258>

- b) ダウンロードする Nexus ダッシュボード のバージョンを選択します。
- c) Cisco Nexus ダッシュボード イメージ (nd-dk9.<version>.iso)。

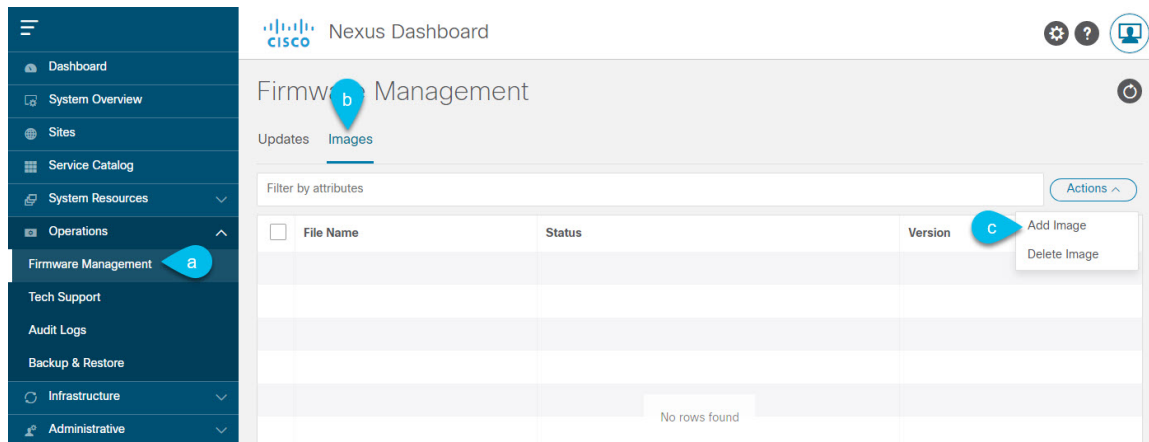
(注) 最初のクラスタ展開に VMware ESX .ova イメージまたはクラウドプロバイダーのマーケットプレイスを使用した場合でも、すべてのアップグレードで .iso イメージをダウンロードする必要があります。

- d) (オプション) 環境内の Web サーバでイメージをホストします。

イメージをNexusダッシュボードクラスタにアップロードする場合、イメージに直接URLを指定するオプションがあります。

**ステップ 2** 現在の Nexus ダッシュボードGUIに管理者ユーザとしてログインします。

**ステップ 3** 新しいイメージをクラスタにアップロードします。



- [Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] に移動します。
- [イメージ] タブを選択します。
- [アクション (Actions)] メニューから、[イメージの追加 (Add Image)] をクリックします。

**ステップ 4** 新しいイメージを選択します。

- [ファームウェア イメージの追加 (Add Firmware Image)] ウィンドウで、[ローカル (Local)] を選択します。

または、ウェブサーバでイメージをホストした場合は、代わりに [リモート (Remote)] を選択します。

- [ファイルの選択 (Select file)] をクリックし、最初の手順でダウンロードした ISO イメージを選択します。

リモートイメージのアップロードを選択した場合は、リモートサーバ上のイメージのファイルパスを指定します。

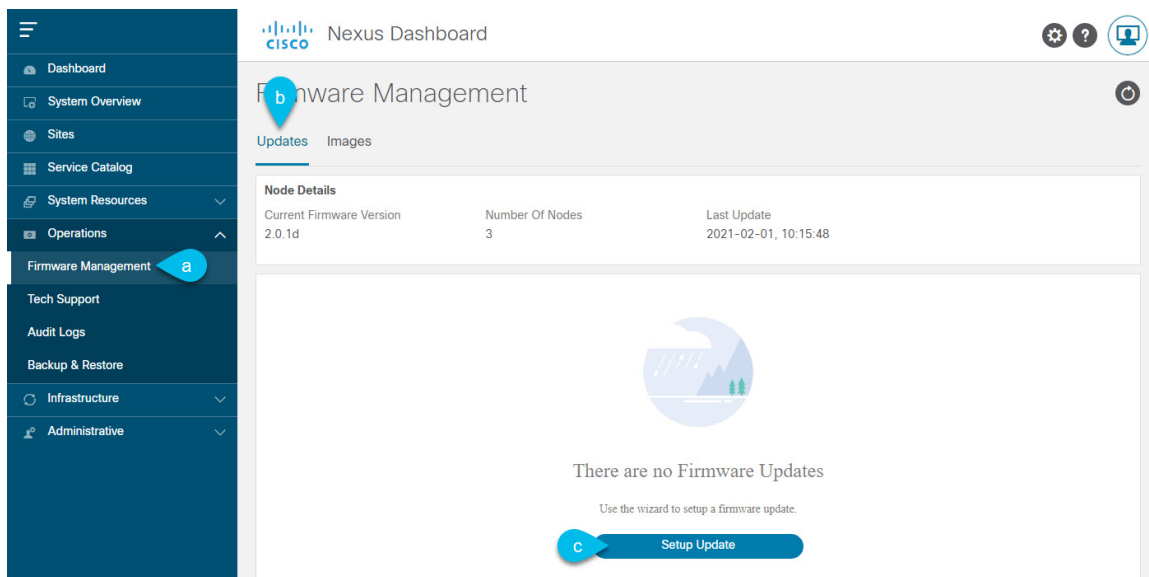
- [アップロード (Upload)] をクリックして、イメージを追加します。

イメージがNexusダッシュボードクラスタにアップロードされ、解凍されて処理され、アップグレードに使用できるようになります。プロセス全体に数分かかる場合があります、[イメージ (Images)] タブでプロセスのステータスを確認できます。

**ステップ 5** イメージステータスが「ダウンロード済み」に変わるのを待ちます。

イメージでイメージのダウンロードの進行状況を確認できます。

**ステップ 6** 更新を設定します。



- [Operations (オペレーション)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] に移動します。
- [更新] タブを選択します。
- [更新のセットアップ (Setup Update)] をクリックします。  
[ファームウェアの更新 (Update Firmware)] ダイアログボックスが開きます。

**ステップ 7** アップグレードイメージを選択します。

- [ファームウェアの更新 (Firmware Update)] > [バージョン選択 (Version selection)] 画面で、アップロードしたファームウェアバージョンを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [ファームウェアの更新 (Firmware Update)] > [確認 (Confirmation)] 画面で、詳細を確認し、[インストールの開始 (Begin Install)] をクリックします。

インストールの進行状況ウィンドウが表示されます。更新中は、この画面から移動できます。後で更新ステータスを確認するには、[ファームウェア管理 (Firmware Management)] 画面に移動し、[最終更新ステータス (Last Update Status)] タイルで [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。

これにより、必要な Kubernetes イメージとサービスが設定されますが、クラスタは新しいバージョンに切り替わりません。次の手順で新しいイメージをアクティブ化するまで、クラスタは既存のバージョンを実行し続けます。このプロセスは、全体で最大 20 分かかる場合があります。

**ステップ 8** 新しい画像をアクティブにします。

- [オペレーション (Operations)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] 画面に戻ります。
- [最終更新ステータス (Last Update Status)] タイルで、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- [Activate] をクリックします。
- [アクティブ化確認] ウィンドウで、[続行] をクリックします。

すべてのクラスタサービスが起動し、GUI が使用可能になるまでに、さらに最大 20 分かかる場合があります。このページは、プロセスが完了すると、自動的に再ロードされます。

**ステップ 9** VMware ESX に展開された仮想クラスタをアップグレードした場合は、ノードを新しいプロファイルに変換します。

(注) 物理クラスタをアップグレードした場合は、この手順をスキップしてください。

リリース 2.1(1)以降、Nexus ダッシュボードは、VMware ESX に展開された仮想ノードに対して2つの異なるノードプロファイルをサポートします。アップグレード後、既存のクラスタのすべてのノードを新しいプロファイルの1つに変換する必要があります。

- **データ ノード** : Nexus ダッシュボード Insightsなどのデータ集約型アプリケーション向けに設計されたノードプロファイル
- **アプリ ノード** : Nexus ダッシュボード Insightsなどのデータ集約型アプリケーション向けに設計されたノードプロファイル

選択するプロファイルは、使用例のシナリオによって異なります。

- Nexus ダッシュボード オーケストレータ サービスのみを実行する予定の場合は、すべてのノードをアプリ ノードプロファイルに変換します。
- Nexus ダッシュボード Insights または共同ホストアプリケーションを実行する予定の場合は、ノードをデータ プロファイルに変換する必要があります。

ノードを新しいプロファイルに変換するには、そのプロファイルを使用して新しいノードを展開し、既存のノードを一度に1つずつ置き換えます。

- a) ノードの1つを停止します。  
一度に1つのノードを置き換える必要があります。
- b) アプリまたはデータ プロファイル OVA を使用して、VMware ESX に新しいノードを展開します。  
新しいノードを展開するときは、置き換えるノードとまったく同じネットワーク設定パラメータを使用する必要があります。また、OVF パラメータの **[クラスタ リーダー (Cluster Leader)]** チェックボックスがオフのままになっていることも確認する必要があります。
- c) 既存の Nexus ダッシュボード GUI にログインします。  
残りの正常なマスター ノードのいずれかの管理IPアドレスを使用できます。
- d) 左側のナビゲーションペインから、**[システム リソース (System Resources)] > [ノード (Nodes)]** を選択します。  
交換するノードが **[非アクティブ (Inactive)]** としてリスト化されます。
- e) 置換する非アクティブ マスター ノードの隣にある **(...)** メニューをクリックして、**[置換 (Replace)]** を選択します。  
**[置換 (Replace)]** ウィンドウが開きます。
- f) ノードの **管理 IP アドレス** と **パスワード** を入力し、**[確認 (Verify)]** をクリックします。  
クラスタは新しいノードの管理 IP アドレスに接続し、接続性を確認します。
- g) **[置換 (Replace)]** をクリックします。

ノードが設定されてクラスタに参加するまでに、最大で20分かかる場合があります。

h) クラスタが正常になるのを待ってから、他の2つのノードに対してこの手順を繰り返します。

**ステップ 10** 同じクラスタで複数のアプリケーションをホストしている場合は、App Infra Services の展開プロファイルを設定します。

Nexus ダッシュボード クラスタで単一のアプリケーションのみをホストしている場合は、この手順をスキップします。

同じクラスタに複数のアプリケーションをホストする場合は、アプリケーションとファブリック サイズの組み合わせに適した展開プロファイルを使用して、App Infra Services を設定する必要があります。

クラスタのアップグレードが完了したら、[『Cisco Nexus Dashboard User Guide』](#)の「App Infra Services」セクションに記載されている手順に従ってください。このガイドは、製品の GUI から入手できます。

---

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。